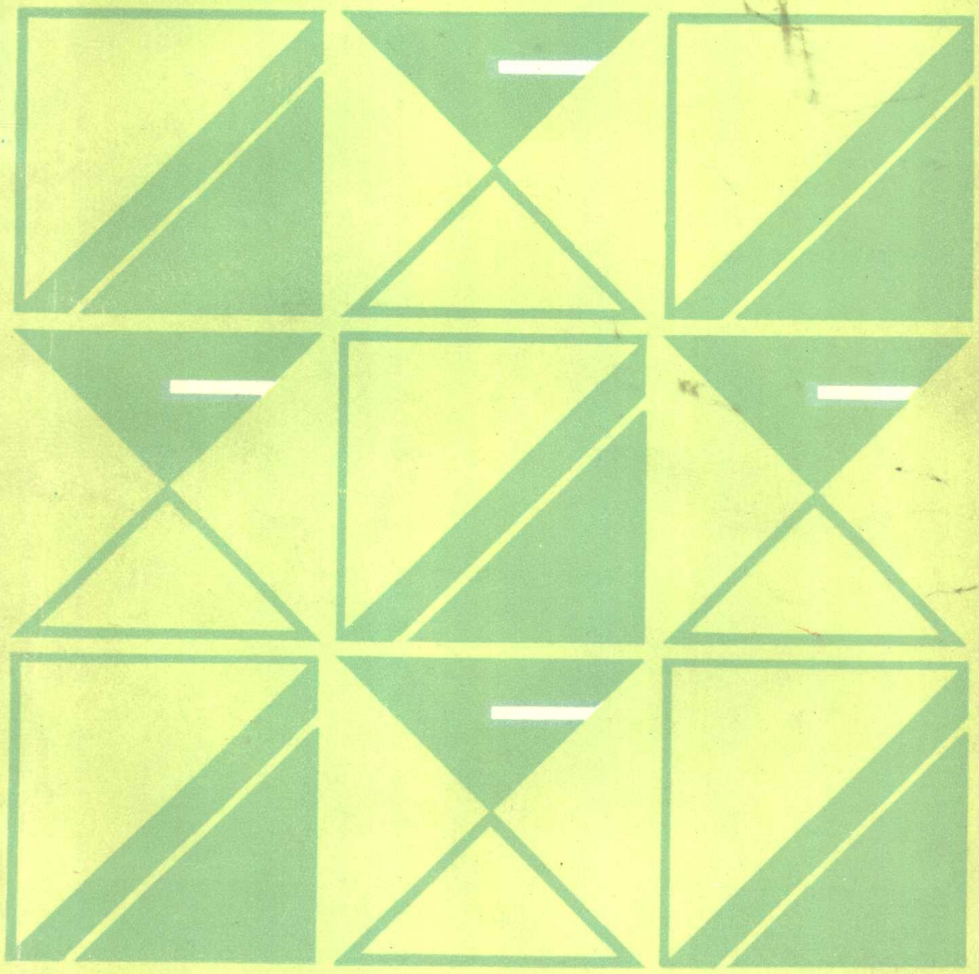
# 日语学习文选

第四集



商务印书馆

# 日语学习文选

（第四集）

商务印书馆
1983年·北京

## 内容提要

本文选是以日语专业二、三年级以上的学生或具有同等学力的日语自修者为对象，以精读为目的的日汉对照注释读物。本集共选短篇文章四篇，大都是日本近代著名作家的作品。其中有三浦哲郎的《化妆》，原民喜的《夏天的花》，曾野绫子的《溯源的鲑鱼》以及有吉佐和子的《地歌》。这些文章都是日本高等国语教课书上选用的教材，语言规范，笔调清新，风格各异。每篇文章前都加了作者和作品简介，正文采用日汉对排的方式，并加注释，日文汉字全都注音，以便于对照阅读。


日语学习文选

（第四集）

辛冰等译注

商务印书馆出版

（北京王府井大街36号）

新华书店北京发行所发行

北京外文印刷厂印刷

统一书号：9017·1309

1983年9月第1版　　开本 787×1092 1/32

1983年9月北京第1次印刷　　字数 133千

印数 16 000 册　　印张 6 7/8

定价：0.74元

# 目　次

一、化粧　三浦哲郎　（尹学义译注）…… 2
二、夏の花　原民喜　（顾明耀译注）…… ……32
三、鮭の上る川　曽野绫子　（含英译注）……84
四、地唄　有吉佐和子　（辛冰译注）…… 116

# 化粧

三浦哲郎

尹学义译注

## (一)

——いまでも,眠り病ってあるかしら①。ほら,私ら子供のころには,よく眠り病に罹る人がいたでしょう。赤ん坊みたいに②ただもう眠ってばかし③いるって病気。あれを思い出して,なんだか薄気味悪くって。

ある晩,洗ったまま流しに置いた鉄瓶に触れると指先が吸いついて離れなくなってしまうほどの寒波がきている④という郷里から,姉が電話をかけてきてそういった。

眠り病のことなら⑤憶えている。夏に多い子供の病気で,これに罹ると高熱を発して意識をうしなったように眠りこける⑥。眠り病は感染るといわれて,病人が出た家の前を通るときは息を詰めて走ったものだ⑦。私の小学

---

〔作者与作品简介〕三浦哲郎(みうらてつお)是日本当代著名作家,1936年3月16日生于青森县,1949年毕业于青森县立八户高等学校,后在早稻田大学第二政治经济系经济专业读了很短一段时间,1950年中途退学,1953年进入早稻田大学文学系法文专业,1957年毕业。1955年12月他在《新潮》杂志的"同人杂志推荐小说特辑"的专号上发表了作品"十五歳の周囲"。1960年10月,在《新潮》杂志发表了"忍ぶ川",获第44届芥川奖。随后又出版了"团欒",和"結婚"等书。



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

# 化　妆

## (一)

“不知现在还有没有嗜眠症这种病？哎呀，咱们小时候可常有患嗜眠症的吧。得了这种病，就象婴儿那样，一味昏睡。我一想起来，就怪瘆人的。”一天晚上，姐姐从老家打来电话这样说着。她还说，家乡正赶上寒潮，冷得手指头一碰到水槽里洗过的铁壶，就会粘住拿不下来。

提起嗜眠症我是记得的。那是一种夏季里多见于儿童的病症。一得了这种病，就发高烧，象是失去知觉一样酣睡不醒。人们传说嗜眠症是会传染的，所以每当经过病人的家门口时，都要屏住呼吸跑过去。在我小学的同班同学中就有两

---

《化粧》主要描写了资本主义社会中、患有生理缺陷的妇女那种自卑的心理状况。　①〔眠り病ってあるかしら〕　不知道还有没有嗜眠症这种病。かしら：终助词，多用于女性，表示怀疑、质问、不定等语气，这里表示怀疑的口吻。って：在这里相当于“というのは”的意思。下文中，“眠ってばかしいるって病気”中的“って”相当于“という”；“薄気味悪くって”中的“って”相当于“ということです”的意思。　②〔赤ん坊みたいに〕　就象婴儿似地。这里“みたい”意思与“ようだ”一样。　③〔ばかし〕　即“ばかり”，是一种俚俗的说法。　④〔洗ったまま…寒波がきている〕　通过与形式用言“という”的连接，构成“鄉里”的定语。其中，“洗ったまま…離れなくなってしまうほど”是表示寒冷程度的，其后接“の”构成“寒波”的定语。きている：“来る”的持续态。　⑤〔眠り病のことなら〕　提起嗜眠症。こと：形式名词，代表“眠り病”这种病。なら：指定助动词“だ”的假定形，这里起着提起话题的作用。　⑥〔眠りこける〕　酣睡，熟睡。

校の級友にも,眠り病に罹ったのが二人いて,二人とも⑧命を取り留めたが,直ったあと,どちらも頭のぼんやりした子になった⑨。眠り病といえば嗜眠性脳炎のことらしい⑩が,おそらくあのころは,子供が罹ると昏睡する日本脳炎の一種をそう呼んでいたものだろう。

けれども,姉がいま話しているのは,もうすぐ八十四になる私たちのおふくろのことで,そんな老婆がこの冬のさなか⑪に,子供の病気になど罹るわけがない⑫のだが,姉の声はいかにも心細そうだった⑬。

姉の話によると,おふくろは,この寒さに腰をやられて⑭,四、五日前から寝たきりになっている⑮。はじめは,手を貸せば⑯坐ることもできたが,坐れば坐ったきりで⑰,あとは立つことも自分で横になることもできない。これでは却って不自由だろうと思って,寝かせて置くと,それきり⑱腰が立たなくなってしまった。

掛かりつけの医者⑲に診て貰うと,さいわい例の漬物石(おふくろは持病の心臓発作のことを,いつも最初はなにか重たい物がずっしりと背中にのしかかってくるような気がするというので,そう名付けている)の方は別条がなく,

---

⑦〔病人が出た家の前を通るときは息を詰めて走ったものだ〕 经过有病人的家门时,都得屏住呼吸跑过去。"病人が出た家の前を"是"通る"的补语,"を"表示通过的场所。"ものだ"是谓语补助成分,这里接在动词过去时的后面,表示了回忆以往经历的语气。 ⑧〔二人とも〕 两个人都。とも:接尾词,这里表示全部、全部之意。 ⑨〔どちらも頭のぼんやりした子になった〕 都变成了傻子。"頭のぼんやりした"是"子"的定语从句,其中"の"是顶替主格助词"が"

人得过嗜眠症，虽然都保住了性命，但病后两个人都变成了傻子。所谓嗜眠症，大概就是嗜眠性脑膜炎，也许当时指的是日本脑炎的一种。小孩子一得了这种病就昏睡不已。

不过，现在姐姐说的是我们那将近八十四岁的老母亲。按理说，这么大年纪的老太太，是不会在大冬天里患儿童病的，但姐姐的声音里确实流露出了几分担心。

据姐姐说，母亲的腰受了寒，打四、五天以前就卧床不起。开头，靠别人扶着还能坐起来，但坐起来之后，自己想站也站不起来，想躺也躺不下去。姐姐怕这样反而不得劲儿，就让她躺下，这样一来，反而连腰也直不起来了。

请经常给母亲看病的医生诊断，幸好除了过去的“腌菜石”（母亲的老病——心脏病发作时，最初总是觉得好象有什么沉重的东西一下子压到了背上，所以就起了这样的名字）之外，没有别的毛病，只是单纯的神经痛，大家才稍稍放心。可

---

的。 ⑩〔嗜眠性脳炎のことらしい〕 大概就是嗜眠性脑膜炎。らしい：推量助动词，表示根据客观情况进行推测。 ⑪〔冬のさなか〕 大冬天里，严冬。さなか，最盛期，正当中。 ⑫〔わけがない〕 接于连体形后，表示“按道理讲是不会…的”“不至于”“不可能”等意。 ⑬〔いかにも心細そうだった〕 的确象是挺担心的。心細い：形容词，心虚，没有把握。そう：样态助动词，接于动词连用形、形容词和形容动词的词干之后，意为“好象要…”“好像…似的”。 ⑭〔この寒さに腰をやられて〕腰受了寒。やられる：受害，挨整。 ⑮〔寝たきりになっている〕 卧床不起。きり：副助词，这里接在“寝た”（“た”在这里是连体形）之后表示限定。意为“光…”，“只…”。 ⑯〔手を貸せば〕 是“坐ることもできた”的假定条件状语。手を貸す：（给别人）帮忙，这里的意思是：扶她一把。 ⑰〔坐れば坐ったきりで〕一旦坐起来就一直坐着。“きり”在这里表示一个动作结束之后，不再出现新的动作。相当于汉语的“…之后，一直…”。 ⑱〔それきり〕 本是由“それ”和副助词“きり”合成，现已发展成一个副词，也可以说成“それっきり”，意为“…之后再也（没）…”。 ⑲〔掛かりつけの医者〕 经常就诊的医生。

単純な神経痛だろうということで，一と安心したが，寝たきりになると，おふくろは，どういうものか⑳一日中眠ってばかりいるようになった。食事のとき声をかけると，しぶしぶ目をあけるが，いつものように軀を動かさないせいか㉑食欲がなく，途中で飽きて，うつらうつらしたりする。それに，普段はほとんど寝息も立てないのに，寝たきりになってからは時々軽いいびきをかく㉒ようになった。

姉は，おふくろと二人暮らしで，おふくろが眠ってしまうともう誰も話相手がいない。それで，ちょっとした気掛かりでも㉓，忽ち独りでは抱えきれないほどに脹らんでしまう㉔。うるさく痛みを訴えたり，我儘を言い放題という病人㉕も困りものだが，ただ昏々と眠るばかりの老人も，一緒に暮らしている者には心細い限りで㉖，ふと，これは眠りすぎではなかろうか，こうして眠っているうちに㉗いつかは声をかけても目を醒ましてくれなくなるのではないかと心配になって，思わず頬を指先で突いてみたりする。ところが，いつもは蠅がとまっても目を醒ますのに㉘，眠ったままで手を払い除けようともしない㉙。するともう，不

---

⑳〔どういうものか〕 不知道是怎么回事。 ㉑〔…せいか〕 或许是由于…的缘故，可能是因为…。せい：原因，缘故。か：副助词，表示不确切的推断。 ㉒〔いびきをかく〕打呼噜，打鼾。 ㉓〔ちょっとした気掛かりでも〕 即使只是一点点挂虑。気掛かり：担心，惦念。でも：提示助词，举出一个极端明显的事物令人推想其它。 ㉔〔忽ち独りでは抱えきれないほどに脹らんでしまう〕 直译为：很快就扩大到一个人承担不起的程度。抱える：抱，负担。きれない：きる的可能态否定式，“きれない”接于动词连用形后，意为“…不完”之意。ほど：副助词，接在“独りでは抱えきれない”后表示程度。“…ほどに”构成“脹らんでし

是不知道怎么回事，母亲只要睡起觉来，一睡就是一整天。吃饭时叫她，才勉勉强强睁开眼睛。也许是因为不象平素那样活动的缘故，她食欲全无，吃一点就够了，露出一副似睡非睡的样子。而且，从前她睡觉几乎连呼吸声都听不到，自从昏睡以来，却经常发出轻微的鼾声。

姐姐跟母亲俩一块儿生活，母亲一昏睡起来，就没人陪她说话了。因此，即使只是一点点挂虑，也会很快扩大起来，到一个人难于承受的程度。那种不住地喊疼，任性乱嚷的病人固然难办，然而面对一味昏睡的老人，一个同她一起生活的人也是成天提心吊胆的。姐姐忽然担心起来，这样一来，岂不是睡得太多了吗？照这样睡下去，说不定什么时候就是喊她，她也再不会睁开眼睛了。姐姐下意识地试着用指尖去碰碰母亲的脸颊。然而，平时连苍蝇停一下都要睁眼的母亲，这次却依然沉沉地睡着，更谈不上去把别人的手拨开了。姐姐更加

---

まう”的补语。 ㉕〔うるさく痛みを訴えたり、我儘を言い放題という病人〕不住喊疼、随便乱嚷的病人。放题：构词成分，接于动词连用形后，表示“随便…”“不加限制地…”。句中“うるさく痛みを訴えたり”与“我儘を言い放題”是并列关系，可以认为在“言い放題”后省略了“にしたりする”。 ㉖〔心細い限りで〕总是不放心。“限り”在这里的用法类似于副助词，“で”是指定助动词“だ”的连用形，表示中顿。 ㉗〔こうして眠っているうちに〕在这种睡眠。 ㉘〔ところが，いつもは蠅がとまっても目を醒ますのに〕这句话直译是“然而，平时即使是苍蝇站一下也要醒（的母亲）而现在却…”。ところが：接续词，此处起扭转话题的作用，相当于汉语的“然而”“可是”等意思。ても：接续助词，表示假定的逆接条件。のに：接续助词，表示前后两个事项不相适应或不合逻辑，相当于汉语的“却”“偏偏”等意思。 ㉙〔手を払い除けようともしない〕根本没想把手推开。“…ようとしない”是惯用型“…ようとする”的否定式，意为“不想”“不要”。本句使用这个惯用型时，在“と”后加上了个提示助词“も”，“も”与否定式的谓语呼应起着加强否定语气的作用。

安は募る一方で㉚，子供のころの眠り病まで思い出すことになり，まさか㉛と嗤ってくれる相手が欲しくて，夜ふけにこっそり私のところへ電話をかけたりすることにもなるのだ。

——ほかに変なところって㉜，べつにないみたいだけど。熱は普段より低いくらいで，だから眠ってても㉝譫言なんかいわないし，目が醒めてるときは頭も口もはっきりしてるの㉞。ただ，呆れるくらいよく眠るだけ㉟。こんな眠り病ってあるかしら。

勿論、ないに決まっている㊱。食うことも忘れて眠りこけるのが眠り病なら，こっち㊲も時時眠り病に罹る。私がそういって笑うと，姉もほっと㊳したような笑い声を立てた。

——じゃ，やっぱり，くたびれが出たのね。なんだか頼りないけど，このままそうっとして㊴，眠りたいだけ眠らせた方がいいのね㊵。

おふくろは，家のなかのことはなんでも自分でしなければ気が済まない㊶性分で，これまで姉が琴を教えている稽古場へ出る日は，夜具の上げ下ろしから炊事や掃除や洗濯まで，ほとんど自分ひとりでやり通し㊷てきた。それが，突然腰が立たなくなって，これでもう当分の間は床を離れら

---

㉚〔募る一方で〕 越来越厉害。"一方だ"接于动，词连体形后，表示"越来越…""一直…"。句中"で"是"だ"的连用形，表示中顿。 ㉛〔まさか〕 副词，怎能，难道。句中其后接有格助词"と"，以构成"嗤ってくれる"的补语，表示笑话自己时的想法。如"怎能想到那儿去"之类。 ㉜〔って〕 终助词，此处表示



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

不安了，甚至想到了儿童时代的嗜眠症，“难道……”。姐姐心想，哪怕这时有个笑话自己荒诞无稽的人也好，于是就在深夜里，悄悄地给我打来了电话。

“看起来，倒好象没有其它不正常的地方，就是体温比平时低些，所以睡着了也没说梦话，醒来之后，脑子和言语都还清楚。只是令人担心地酣睡，有这样的嗜眠症吗？”

“当然没有。要说酣睡得忘了吃饭就是嗜眠症，那么我也常常患嗜眠症的。”我笑着这样说，姐姐也放心地笑了起来。

“那，她还是疲劳过度了吧？我总觉得心里没底儿。要不，就这样别惊动她，只要她想睡，就让她睡吧。”

我母亲就是有这么一种性格：对于家务活儿，事无巨细，不自己动手就不放心。直到现在，在姐姐上讲习所教古琴的日子里，从铺床叠被到做饭、扫除、洗衣服，几乎全由她一手包办。而现在却突然直不起腰来，当她自己刚刚意识到目前需

---

说话人边说边思索，起缓和语气的作用。 ㉝〔眠ってても〕 即使睡着。“眠ってても”是“眠っていても”的口语表现形式，在口语中，这个连语里的“い”会发生脱落现象，即成为“眠ってても”。下文“醒めてる”是由“醒めている”脱落掉“い”而成的；“はっきりしてる”是由“はっきりしている”脱落掉“い”而成的。 ㉞〔の〕 终助词，主要是女性、儿童使用，在这里表示慎重的断定。 ㉟〔だけ〕 副助词，这里与句首的副词“ただ”相呼应，表示限定。“だけ后省掉了指定助动词“だ”。 ㊱〔ないに決まっている〕 肯定没有。“…に決まっている”接于体言或用言连体形后，表示“一定…”“必定…”。 ㊲〔こっち〕 即こちら，但比说“こちら”随便得多。这里用作说话人自称。 ㊳〔ほっと〕 放心，轻松。 ㊴〔そうっとして〕 即そっとして，是“そっとして”的强调形式，本意为“悄悄地”“安静地”。 ㊵〔のね〕 终助词の与终助词ね的叠用，女性专用，表示轻微的感叹或商量叮嘱的语气。 ㊶〔気が済まない〕 心里过不去，不放心。 ㊷〔通し〕 通す的连用形。“通す”接于动词连用形后可表示“继续…”“…到底”等意。“やり通す”是“干到底”“搞完”的意思。

れないと観念した途端に，溜まっていた疲れがいちどにどっと㊸出てきたのだろう。

それにしても，おふくろに寝込まれると真っ先に㊹困るのは姉だから，妻を手伝いにやろうかというと，それには及ばないと姉はいった。

——大丈夫。寒いうちはお稽古をやすむことにしたから。それに，こんな状態がいつまでつづくかわからないし，三日か四日きて貰っても仕様がない㊺もの。大抵のことは自分でできるから大丈夫よ。

そのとき，私は不意に姉が独りになると一番困ることに気がついて，口を噤んだ。（姉は独りで，自分の化粧をどうする気だろう）

けれども，私はそれを姉に尋ねるわけにはいかない。

## （二）

姉は，生まれつきの白っ子㊻だが，それでも女だから化粧をする。髪は染粉で漆黒に染め，眉には眉墨を丹念に引く。睫毛はどうすることもできないから，出掛けるときは薄墨色の眼鏡をかける。それに，時々は生え際あたり㊼の白い産毛㊽も剃らねばならない。

姉の化粧といっても，これだけのことだが，眉を描くぐらいなら㊾鏡に向えば自分でできるからいいとして㊿，髪を

---

㊸〔どっと〕 猛然，一下子。 ㊹〔真っ先に〕 首先。是“困る”的状语。 ㊺〔仕様がない〕 没有办法。句中的意义是“不解决问题”。 ㊻〔生まれつき

要卧床休息一下时，多年的积劳就猛地一下子爆发了出来。

说实在的，母亲病倒了最难为的还是姐姐，所以我问她是否需要让我妻子去帮帮忙。姐姐说：

“没关系。天冷时，讲习所就放假了，而且妈妈这样子还不知要持续多久，即使来帮上三、四天忙也解决不了什么问题。一般的家务事儿我自己能干，放心好了。”

这时我突然想起来，有件事姐姐一个人的时候最伤脑筋了，可是却没有说出来。（姐姐她一个人，怎么给自己化妆呢？）

## （二）

姐姐生来就患白化病症，可因为是女的，就得化妆。头发用染发粉染得乌黑，眉毛用眉笔细心地描过，睫毛实在没法修饰，外出时就戴上副浅色墨镜。此外，还必须经常把发际的白汗毛剃去。

姐姐的化妆说起来也不过就是这些，可是，就算描眉时，自己对着镜子还不成问题吧，那染发和剃发边的汗毛，一个人可就没办法了。暂且不提染发，这剃汗毛，似乎有了镜子和剃

---

の白っ子〕 天生的白孩儿。“白孩儿”即“白化病人”（是指因缺乏色素而形成的白皮肤、白发、白眉、白汗毛的白化病症）。 ㊼〔生え際あたり〕 发际一带。生え際：前额或后颈的发际。あたり：附近，一带。 ㊽〔産毛〕 胎毛；汗毛。这里指汗毛。 ㊾〔眉を描くぐらいなら〕 比如像描眉之类的吧。ぐらい表示同等的程度，相当于汉语的“象”“如同”等意思。なら用来提起话题。 ㊿〔眉を描く……いいとして〕 假设…描眉还可以…。として接于用言之后表示“假设”“如果说”。

染めることと産毛を剃ることとは，とても独りの手に負えない[51]。髪はともかく，産毛の方は，鏡と剃刀があれば独りでもできそうだが，あいにく姉は肌や毛が白いばかりではなく，目も青味を帯びた灰色で，弱視だから，物をよくみようとすると[52]顔がこまかく左右に揺れ動く。顔を小刻みに振りながらでは[53]，危くて，とても生え際など剃れるものではない。髪も，産毛も，毎朝のことでないのが幸いだが，それでも月にいちどや二度は，誰か気心の知れた人[54]の手を借りなければならないのである。

勿論，これまでは，どちらもおふくろがしてやっていた。

天気のいい日の昼近く，「台所、使わえ[55]。」

おふくろは家族にさりげなく[56]そう告げて，姉と一緒に閉じ籠もる。家族は素知らぬ顔をしている[57]が，誰も台所には近づかない。小一時間ほどの間，台所はひっそりとして，時々水音だけがきこえている。

やがて，不意に戸が開いて，黒すぎるほど[58]の洗い髪をタオルで包んだ姉が出てくる。諸肌脱ぎ[59]になっていたので，着物の襟が弛んでいる。姉は眉墨の落ちた[60]顔をそむけるようにして，小走りに廊下を通り抜けていく。それきり，髪がすつかり乾いてしまうまで[61]，どこかにひそんでいて人前に姿を現わさない。

---

[51]〔とても独りの手に負えない〕 一个人就根本无法处理。"負えない"是"負える"的否定式，表示"能承担""能受理"之意。 [52]〔物をよくみようとすると〕 当要仔细看东西的时候。"…ようとする"是惯用型，意思为"要…""想…""将要…"。と，接续助词，一当…，一…，如…就…。 [53]〔顔を小刻みに振りなが

刀，自己一个人也行。但是，不巧的是，姐姐不仅皮肤、毛发是白的，而且眼睛的颜色也是灰中透青，天生的视力弱。因此，每当要仔细看东西的时候，脸就轻轻地向左右两边晃动。化妆时脸的轻微晃动也是危险的，根本剃不到发际的汗毛。幸亏头发和汗毛都不是每天早晨的例行打扮，不过，一个月也得求熟人帮一两次忙。

不消说，到现在为止这些都是我母亲的事了。在天气好的日子，到了近中午时分，母亲就若无其事地告诉家里的人们："要使厨房啊。"然后就和姐姐两个人关在屋里。家里的人都假装不知道，谁也不走近厨房。在这不到一小时的时间里，厨房里静悄悄的，有时可以听到水的响声。

过一会儿，门突然打开了，姐姐用毛巾裹着那染得过分黑的湿头发走了出来。她裸露着肩膀，和服领子松松地耷拉着，侧着已经洗去了眉墨的脸，急步穿过走廊。就这样，在头发完全干透之前，她始终躲在什么地方不露面。

---

らでは〕 如果轻微晃动脸部的话。ながら，接续助词，接于动词连用形后表示两个动作的同时进行。这里在"振りながら"后省略了"化粧をする"之类的动词或动词性词组。"では"是由"であっては"缩合而来，大致与"なら"同意，也能起到提出话题的作用。"では"一般接在体言之后，这里可以认为在省略掉"化粧をする"的同时，还省略了一个形式名词。 ⑭〔誰か気心の知れた人〕 意为"某个知心人"，"某个熟人"。 ⑮〔使わえ〕 方言，相当于"使いますよ"。 ⑯〔さりげなく〕形容词"さりげない"的连用形，在句中作状语。意为：若无其事的，毫不在意的。 ⑰〔素知らぬ顔をしている〕 作着假装不知道的样子。顔をする：作出…容，作出…样子。 ⑱〔黒すぎるほど〕 过于黑的。"すぎる"接于形容词词干和动词连用形后，表示"过于…""…得过分"。ほど，副助词，表示程度。 ⑲〔諸脱肌ぎ〕 坦胸露背；露出肩膀。 ⑳〔眉墨の落ちた〕 洗掉眉墨。是"顔"的定语从句，"の"代替"が"表示从句的主语。

私は,子供のころからもう何度となく[62],そんな姉の化粧の日の不思議な静けさ[63]を味わってきたが,いちど,おふくろが老境に入りかけたころの一時期を[64],おふくろにもしものこと[65]があれば姉も後を追うことになるかもしれないと思って,暗い気持で過ごしたことがある。いまはもう,五十を過ぎてしまった姉が化粧のことぐらいで世をはかなむとは思わない[66]が,それでもやはり,おふくろがこのまま寝たきりになってしまうかもしれないと思うと,姉がこの先,化粧をどうするつもりか[67]気掛かりであった。

——大抵のことは自分でできるから,大丈夫よ。

姉はそういったが,私にはその大抵のことのなかに化粧も入っているとは思えなくて[68],いずれ都合をつけて様子をみに帰るつもりだ[69]が,困ったことがあったらなんでも相談してくれるようにというと,

——うん。有難う。

とだけ,姉はいった。それから,妻に買物をすこし頼みたいというので,私は受話器を妻に渡した。

## (三)

に入っていた高校一年の長女を連れて郷里へ帰った。お

その後,一週間ほどしてから[70],私はちょうど試験休み

---

[61]〔髪がすっかり乾いてしまうまで〕 直到头发完全干透。まで,副助词,接于"髪が…しまう"之后,表示时间的终点,构成状语。 [62]〔何度となく〕 多次。"疑问数词+となく"可视为惯用型,意为"许多…""无数…"。 [63]〔静けさ〕 寂静。由文语形容词"静けし"的词干接接尾词"さ"构成。 [64]〔…に入り



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com